

2011 年度 中央大学特定課題研究費 ー 研究報告書ー

所属	商学部	身分	教授
氏名	佐久間 英俊		
NAME	Hidetoshi Sakuma		

1. 研究課題

(和文) 日本企業のマーケティングの進化に関する研究

(英文) A study on marketing evolution in Japanese enterprises

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度)

(和文) 私の主たる研究課題は、日本企業のマーケティングの進化の解明にある。現在、国内市場は長引く不況の影響から低価格競争が激化する市場も多く、原材料価格の高騰とも相まって、企業にとって価値実現の困難が増している。また各国市場の相互浸透が進展した結果、国内外で国際競争が激化している。

こうした市場環境のもとで展開される日本企業の現代マーケティングの特質を析出するため、海外では、フランス、トルコ、ベトナム、カンボジア、フィリピン、韓国などを訪問し、多様な企業や団体で実態調査を行った。一方国内では、福島県川内村、新潟県柏崎市、山梨県笛吹市、東京都品川区、神奈川県川崎市、小田原市、山口県下関市をはじめ、多数の企業・団体を訪問し、聞き取り調査などを行った。

また、Jallat 教授 (フランス ESCP Europe)、D.Marshall 教授、(イギリス・エジンバラ大学)、フィリピン PISM の先生方、姜鎮旭教授 (韓国・慶星大学) などと研究交流を深めてきた。

こうした調査・研究の結果、本研究では、以下のことを明らかにした。

国内市場で内需が回復せず低価格競争が激化するもとの、第 1 に、大手の有力企業は下請け企業や系列店など力の弱い主体により一層の負担転嫁を図っていること、第 2 に情報技術を活用し、流通費用の削減と顧客要求への適合を図っていること、第 3 に従来は内需主導型とされた産業でも、途上国をはじめとする海外市場の位置づけを高め、商品輸出や多国籍的展開などマーケティングの国際化を進めていること、第 4 にコスト削減の活動が行き過ぎた場合には、企業の社会的責任を問われるような不祥事に繋がっていること、などである。

今後はこれらの知見をさらに掘り進め、日本企業が行う収奪のより詳細な分析、情報技術を駆使した流通イノベーションの類型化、海外展開の成否などの考察を進めていく予定である。

なおこれらの研究成果の一部は、以下の業績としてすでに公表している。

(英文)

Main research task is elucidation of marketing evolution in Japanese enterprises. Now many Japanese enterprises are in face of small domestic demand and strong low price competition. To get a profit, they try to shift their load onto powerless business partners, reduce distribution cost, suit customer's needs by using ICT, and put forward globalization. But in case of overdoing, they cause scandals and are taken CSR.

4. おもな発表論文等（予定を含む）

<p>【学術論文】（著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月）</p> <p>拙稿「安全問題とソーシャル・マーケティング」（単著）小野雅之・佐久間英俊編著『商品の安全性と企業の社会的責任』白桃書房、第1章所収、2013年秋頃刊行予定。</p>
<p>【学会発表】（発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月）</p> <p>「統一論題3報告へのコメント」日本流通学会第26回全国大会（統一論題「流通・生活・復興」でのコメント、2012年11月、名城大学）</p>
<p>【図 書】（著者名、出版社名、書名、刊行年）</p>
<p>【その他】（知的財産権、ニュースリリース等）</p>